

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19320027
 研究課題名（和文）比較デザイン論研究
 ー意匠・構想・設計・創造論の歴史的展望
 研究課題名（英文）WORDS FOR DESIGN
 ーComparative Etymology and Terminology of Design and its Equivalents
 研究代表者
 藤田 治彦（FUJITA HARUHIKO）
 大阪大学・コミュニケーションデザイン・センター・教授
 研究者番号：00173435

研究成果の概要（和文）：

現在、「デザイン」という英語が世界中で使われ、広義の意味で使用されるようになった一方、世界各地の「デザイン」に対応する各国語は、それらが「デザイン」の訳語として使われたり、不適切な解釈を与えられたりすることによって、次第に失われつつある。本研究では、「デザイン」に対応する世界中の言葉の発生と展開をたどり、その意味と用法の違いを比較した。それを通じて、私たちは興味深い、地域的あるいは時代的な違いを見出し、他方、違った空間と時間に属する、本来は異なった言葉のあいだに、興味深い共通性を確認できた。

研究成果の概要（英文）：

Today, the English word 'design' is used all over the world. However, while 'design' has become international and very wide in its meaning, the nuance that once existed within each culture's equivalent of 'design' are disappearing, as the indigenous terms are improperly reinterpreted as translations of 'design.' The aim of this study is to trace the genealogy of 'design' and its equivalents all over the world and to compare their meanings and usages. Through these comparisons, we found significant geographical and chronological differences and interesting parallels between comparable but different words in different cultures.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2007年度 | 5,400,000 | 1,620,000 | 7,020,000 |
| 2008年度 | 4,500,000 | 1,350,000 | 5,850,000 |
| 2009年度 | 3,800,000 | 1,140,000 | 4,940,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 13,700,000 | 4,110,000 | 17,810,000 |

研究分野：哲学

科研費の分科・細目：美学・美術史

キーワード：デザイン・意匠・構想・設計・創造

1. 研究開始当初の背景

現在、「design」という英語が世界中で使われている。今日では、それは、いわゆる造形上のデザインだけでなく、わたしたちがつくり出すあらゆるモノや情報の企画、計画、開発、設計、製造から、マーケティングや流通や販売、あるいは購入や消費にまで至る、しかも、製品に限らず、人間をも含むすべての生活やライフサイクルをカバーする言葉として使われている。

このように、「design」という言葉が、広義の意味で国際的にきわめて広範に使用されるようになった一方で、世界各地、各国で用いられてきた、「design」に対応するそれぞれの地域の言葉やそのニュアンスは、それらが英語の「design」の訳語として使われたり、不適切な解釈を与えられて使われたりすることによって、各地で次第に失われつつある。

「design」は、便利な国際語ではあるが、関連事象を一応包み込んでいるアンブレラ・タームであり、その導入以前に別な固有の言葉を持っていた文化にとっては、「design」の傘に入りきれない部分が気になる。そこにはそれぞれの文化が持っていた固有の創造の鍵のようなものがあり、それこそが、「design」の傘に入った画一的な創造（あるいは製造）への見直しにつながるのではないかと考えられる。このような歴史的、社会的背景がある、それが本研究を開始する時点での認識であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、英語の「デザイン」に対応する世界中の言葉の発生と展開をたどり、その意味と用法の違いを比較することである。このテーマに関心を寄せる全世界の研究者が、さまざまな文化の過去と現在の「design」関連語を持ち寄り、比較しあい、世界的な、言葉の系統樹をつくり、人類による創造の過去と、現在と、未来についての知見を共有しようとするものである。特定の文化における関連語の不在も極めて重要である。「design」の系統樹の陰に、まだ不可視の「非 design」の系統樹が見えてくるかも知れない。「design」と「非 design」あるいは「反 design」をも視野に入れ、研究を行う。

3. 研究の方法

国際研究会（ワークショップ）を世界各地で開催し、毎年度末に「科研研究年報」を刊

行する。これらを積み重ねて、関連研究を比較検討し、総括する。

「科研研究年報」の刊行は、研究の「結果報告」というよりは、「経過報告」であることにより大きな意味がある。この「科研研究年報」に目を通すことによって、研究代表者と研究分担者が研究の進展や遅滞を自覚し、研究協力者が、次に進むべき方向を的確に予測することができる。この「科研研究年報」に触れて、研究に興味を持って協力を申し出、次の年度に、新たな研究協力者として、重要な研究発表を行った例もある。

これらの「科研研究年報」の刊行と国際研究会の積み重ねの上に、研究が総括されることになる。

4. 研究成果

関連研究の比較検討を通じて、興味深い、地域的あるいは時代的な違いを見出すことができた。逆に、違った空間と時間に属する、本来は異なった、英語の「design」に対応する言葉のあいだに、興味深い共通性を確認できた場合もある。創造行為をめぐる世界のさまざまな言葉は、多様性に満ちていることが、研究分担者および研究協力者によっても確認された。

この国際共同研究の成果は、研究年報『WORDS FOR DESIGN I』（平成20年3月）、『WORDS FOR DESIGN II』（平成21年3月）、『WORDS FOR DESIGN III』（平成22年3月）として刊行された。

ボローニャ（イタリア：平成19年9月）、大阪（日本：平成19年10月）、台北（台湾：平成20年3月）、ノリッジ（連合王国：平成20年7月）、コルフ（ギリシア：平成21年10月）における、計5回の国際ワークショップで発表された研究論文は、その他いくつかの関連論文とともに、CDに収められ、国内外の関連研究者および主要研究機関等に配布されている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計13件）

①伊達立晶、エドガー・アラン・ポーにおける蟲、大正ロマン、第33号、華宵会、2009、16-18、査読無

②池上英洋、工業デザインと遠近法—ディセーニョの技法と概念の成立におけるレオナルド・ダ・ヴィンチの寄与、恵泉女学園大学紀要、学内査読有、第21号、2009、127-148

③高安啓介、「近代建築の地域性とは何か」、『芸術とコミュニケーションに関する実践的研究』、42-49、2009、査読無

④ Fujita Haruhiko, Letters on Images: Concerning Japanese Art, *International Yearbook of Aesthetics*, 査読有, Volume 12, 2008, 68-90

⑤内田次信、エウリピデス『オレステス』とその間テキスト性、大阪大学大学院文学研究科紀要、第48巻、2008、81-95、査読無

⑥内田次信、「宗教と哲学の妄想を笑う—ルキアノスの風刺文学とファンタジー（その一）」、文芸学研究、査読有、第12号、2008、1-29

⑦池上英洋、空間性の均質化への遠近法とデザインの寄与—東洋の空間性に関する造形言語の西洋における受容、恵泉女学園大学紀要、学内査読有、第20号、2008、179-201

⑧ Ikegami Hidehiro, Design and Perspective: Contributions of Leonardo da Vinci, *Proceedings of the 6th International Conference of Design History and Design Studies*, 20-23, 2008、査読無

⑨ Takayasu Keisuke, The Concept of *Gestaltung* in Design Education, *Proceedings of the 6th International Conference of Design History and Design Studies*, 60-63, 2008、査読無

⑩Fujita Haruhiko, GENESIS OF KANA and its relationship with Japanese art and nature, *XVII International Congress of Aesthetics, Congress Book 1*, 343-348, 2008、査読無

⑪藤田治彦、意匠論序説、美学研究、査読有、第5号、2007、1-17

⑫池上英洋、潜在的統一性の考察—ブランディの理論と芸術作品の定義、恵泉女学園大学紀要、学内査読有、第19号、2007、109-128

⑬高安啓介、地域における近代建築—日土小学校の保存によせて、地域創成研究年報、第2号、2007、141-154、査読無

〔学会発表〕（計2件）

①内田次信、「ディオーン・クリュストモス『トロイア陥落せず』における神話伝承と「真実」の問題—弁論術からフィクションへ」、美学会西部会、京都大学、2008年7月4日

②Fujita Haruhiko, GENESIS OF KANA and its relationship with Japanese art and nature, XVII International Congress of Aesthetics, Middle East Technical University, Ankara, 9 July 2007

〔図書〕（計13件）

①藤田治彦編、『芸術と福祉：アーティストとしての人間』、大阪大学出版会、2009、1-290

②藤田治彦、『ウィリアム・モリスとアーツ&クラフツ』、東京美術、2009、1-80

③池上英洋、『ラファエッロ』、東京美術、2009、1-80

④池上英洋、『ダ・ヴィンチ 全作品・全解剖』、阪急コミュニケーションズ、2009、1-112

⑤池上英洋他編、『イメージとパトロン—美術史を学ぶための23章』、ブリュッケ、2009、1-396

⑥岡田温司・池上英洋編、『レオナルド・ダ・ヴィンチと受胎告知』、平凡社、2009、1-236

⑦池上英洋他編、『イメージとテキスト』、ブリュッケ、2009、1-396

⑧藤田治彦編、『近代工芸運動とデザイン史』、思文閣出版、2008、1-300

⑨池上英洋、『恋する西洋美術史』、光文社、2008、1-312

⑩太田喬夫・三木順子編、『芸術展示の現象学』、晃洋書房、2007、1-286

⑪池上英洋、『レオナルド・ダ・ヴィンチの世界—All about Leonardo』、東京堂出版、2007、1-464

⑫パオロ・ガルツィ、池上英洋他、『レオナルド・ダ・ヴィンチ—天才の実像』、朝日新聞社、2007、1-219

⑬池上英洋、『レオナルド・ダ・ヴィンチ』、小学館、2007、1-128

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤田 治彦 (FUJITA HARUHIKO)
大阪大学・コミュニケーションデザイン・
センター・教授
研究者番号：00173435

(2) 研究分担者

内田 次信 (UCHIDA TSUGUNOBU)
大阪大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：80351435

三木 順子 (MIKI JUNKO)
京都工芸繊維大学・大学院工芸科学研究
科・准教授
研究者番号：00283705

伊達 立晶 (DATE TATSUAKI)
同志社大学・文学部・准教授
研究者番号：30411052

池上 英洋 (IKEGAMI HIDEHIRO)
恵泉女学園大学・人文学部・准教授
研究者番号：00409806

高安 啓介 (TAKAYASU KEISUKE)
愛媛大学・法文学部・准教授
研究者番号：70346659